

歴史特別委員会では、折に触れてその活動に関連した記事を会誌に掲載してきた。たとえば、最近では情報処理技術遺産認定式の報告や情報処理技術遺産の中で特に興味深いものを取り上げた解説などがあり、このような企画は今後も継続したい。

また、精力的に進めてきたコンピュータパイオニアへのインタビューの記録はまだ公開していないが、これも大変興味深いお話が多いので少しずつ公開していきたいと考えて準備中である。

このように今後も歴史特別委員会関係の記事掲載の予定があるので会誌に歴史特別委員会のページを設けていただくことで会誌編集委員会のご了解を得た。2～3カ月に一度程度の頻度で会員各位に興味を持っていただけるような記事を掲載していきたいと考えている。ご期待下さい。

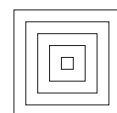
ページのタイトルは「古機巡礼/二進伝心」とした。情報処理技術遺産の話とオーラルヒストリーを意味しているタイトルで和田英一委員の創作である。

歴史特別委員会 委員長 発田 弘

平成 21 年度情報処理技術遺産および分散コンピュータ博物館認定式

和田 英一

(株) IJ イノベーションインスティテュート/歴史特別委員会委員



はじめに

情報処理学会の歴史特別委員会では、昨年（2009 年）3 月 2 日に、平成 20 年度の情報処理技術遺産と分散コンピュータ博物館の認定式を行った¹⁾。それに引き続き、平成 21 年度の認定作業を進め、本年 3 月 9 日に認定式を行った。その報告である。

ご記憶のように、1 年前の認定式は、東京上野の国立科学博物館において開催したが、これには特別に経費もかかるので、それに代わる本年の認定式の形を検討した結果、同じく歴史特別委員会が毎年、の全国大会で開催するイベント、「私の詩と真実」のセッションの冒頭において行うこととした。認定式自体の内容は、昨年と同様で、情報処理技術遺産には認定証を記載した盾を、また分散コンピュータ博物館には認定書とプレートとを、それぞれ関係者に贈呈した。

具体的には、
大会初日(3 月 9 日)
小柴ホールに於て

09:30	開会
09:30 ～ 09:35	会長挨拶(情報処理学会長 白鳥則郎)
09:35 ～ 09:45	選定基準概要の紹介と選定経緯の報告



認定式の様子(写真右：白鳥会長，左：微分解析機の所有者，東京理科大学近代科学資料館 増田和彦氏)



微分解析機の認定証



分散コンピュータ博物館プレート



PC-9801 による初代「一太郎」デモ展示



微解析機 (東京理科大学 近代科学資料館所蔵)

- 09:45 ～ 10:10 認定証授与式
 10:10 ～ 10:20 休憩
 以降 詩と真実
 10:20 ～ 11:20 講演「棒ほど願って」
 東京女子大学名誉教授 水谷静夫
 11:20 ～ 11:30 休憩
 11:30 ～ 12:30 講演「先人に学ぶ」
 富士通(株) 顧問 山本卓真

水谷氏の講演の様子は、本号 p.574 を参照。

また会場では東京理科大学近代科学資料館の PC-9801 の運転デモがあった。



HITAC 201

情報処理技術遺産

平成 21 年度として認定された情報処理技術遺産は次の 11 件である。今回からソフトウェア関係のものも認定する(かっこ内は和田による勝手な注)。

- 微解析機 (東京理科大学近代科学資料館所蔵。我が国では、戦争中に東大の航空研究所が、また戦争後に東大の生産技術研究所が、機械式の微解析機を設置していた。今回認定された理科大学の微解析機は、大阪大学にあったものと考えられている)
- HITAC 201 (1960 年、日立が開発した、主として事務処理用トランジスタ計算機。磁気テープ装置、カナ文字入りラインプリンタを装備していた)
- NEAC-2203 NARC (NEAC ARithmetic Compiler の略で、1961 年頃に完成した我が国初の商用コンパイラといわれる。FORTRAN に類似の NARC 語を機械語に翻訳した。開発者は東大応用物理を卒業して日電に入社した古山良二。ちなみに NEAC-2203 は、東海大学のものが昨年度に情報処理技術遺産に認定され、また Mountain View の Computer History Museum にも同系機が展示されている)
- MARS-101 (昨年度に情報処理技術遺産に認定され



NEAC-2203 NARC 説明書 (写真提供: NEC)



MARS-101 端局装置 (手前) と中央装置の一部 (奥) (国立科学博物館所蔵)

た、MARS-1 の性能を強化した国鉄の座席予約システムで、MARS-1 が大宮の鉄道博物館にあるのに対し、こちらは上野の国立科学博物館で展示されている。1963 年日立製)

- NEAC-1210 (日電が 1964 年に開発した、小型計算機。小型、低価格のため、当時としては多数納入された)
- MELCOM 81 (三菱電機が 1968 年に発売開始した、いわゆるオフコンである。事務計算用なので、内部は十進らしい)
- SCK-201 形漢字鍵盤さん孔機 (1968 年、新興製作所が開発した漢字用の入出力装置。漢字 (と仮名) が 12 個表示されたキーが横 24、縦 8、都合 192 個ならび、その 1 個と、12 個から特定のものを選ぶキーを押して漢字 (と仮名) を選択する。24 × 8 × 12 = 2304 個の文字が入力可能)
- 2400B 型ラインプリンタ (沖電気 1973 年製造。2400B は 2400 ボーの送受信を意味する。1 文字 8 ビットとすれば、毎秒 300 字だ。性能は 1 行 132 字を毎分 150 行というから、計算では毎秒 330 字になる)
- FACOM 603F 磁気テープ装置 (富士通が 1968 年に発表した、シングルキャプスタン方式の磁気テープ装置。テープの前進/後退を、1 個のキャプスタンの回転方向を切り替えて駆動した。写真の下方に見える 2 本の縦の帯状のものは、テープのたるみの幅をほぼ一定にする真空装置)
- OASYS 100 及び親指シフトキーボード試作機 (富士通 1983 年製造。親指シフトは OASYS ワープロ用の、富士通が開発したユニークな日本語入力法である。親指シフトについては、情報処理 44 巻 11 号 神田泰典の解説参照)
- 初代「一太郎」(一太郎といえば、「分かったら鉄砲を上げろ」だったが、今はワープロソフトとしてしか知られていない。徳島のジャストシステムが開発し、1985 年に発売開始した。若くして亡くなった学生の名前に由来すると、昔、浮川夫人に聞いたことがある)



MELCOM81 (写真提供：三菱電機インフォメーションテクノロジー (株))



SCK-201 形漢字鍵盤さん孔機 ((株) 新興製作所所蔵)



2400B 型ラインプリンタ



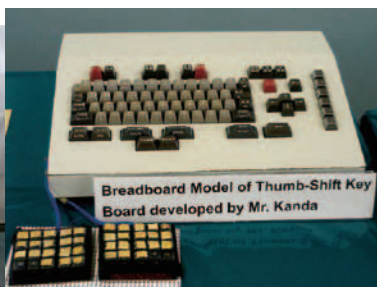
NEAC-1210 (写真提供：NEC)



FACOM 603F



初めて親指シフト方式を採用した OASYS 100



大きい方が親指シフトキーボード
試作機

情報処理技術遺産
パンフレット



初代「一太郎」パッケージ
(写真提供：(株)ジャストシステム)



東京理科大学近代科学資料館 機械式計算機展示



東北大学サイバーサイエンスセンター展示室

分散コンピュータ博物館

また認定された分散コンピュータ博物館 (2 件) は次のものである。

- 東京理科大学近代科学資料館 (東京物理学校の校舎を復元した二村記念館に、計算の歴史に関する資料を蒐集展示している (昨年度認定の MUSASINO-1B の姉妹機) パラメトロン計算機 FACOM 201 や、(今年度認定の) 微分解析機もある。菱田為吉の多面体模型も見逃せない)
- 東北大学サイバーサイエンスセンター展示室 (サイバーサイエンスセンターとは、昔の大型計算機センターのこと。その頃使われていたパラメトロン計算機 SENAC や、その後のスーパーコンピュータ SX-*n* たち、学内ネットワーク TAINS の部品その他が展示されている)

おわりに

歴史特別委員会では、今回もパンフレット「情報処理技術遺産」を編集した(写真)。本年度の「情報処理技術遺産」、「分散コンピュータ博物館」の紹介のほか、昨年度の認定も掲載する。さらに「情報処理技術遺産認定基準」もある。ご高覧を乞う。

同様の内容は、コンピュータ博物館の Web ページ (<http://museum.ipsj.or.jp/>) にもあるので、こちらもご覧いただきたい。

参考文献

- 1) 和田英一：情報処理技術遺産および分散コンピュータ博物館認定式，情報処理，Vol.50, No.5, pp.369-374 (May 2009).
(平成 22 年 3 月 10 日受付)

和田 英一 (名誉会員)
wada@u-tokyo.ac.jp

1955 年東京大学理学部物理学科卒業，東京大学工学部，富士通研究所を経て IJ 技術研究所所長，Happy Hacking Keyboard，和田研フォントの開発に関与，IFIP WG2.1，WIDE プロジェクトメンバ，プログラミング・シンポジウム委員長。